



曾木玲子さん / 道の駅オープン当初から花の栽培で生産者として活躍。「ここには可能性がたくさんある。移住者である自分たちが、地域とつながっていることがうれしい」

て、食品などは岩出山、大きなスーパーやレンタルビデオ店などは古川へ、そしてデパートや美術館などは仙台へ。車で小一時間ほどの距離なら、満員電車に乗りたくないだけでもありがたいのだそうです。

気候は過ごしやすく、何よりも四季がはっきりしていてどの季節も素晴らしい。初めて訪れた十月、田んぼが黄金色に輝いていました。

交通の便、利便性、自然環境、すべてが整っていたと話す曾木さん。「生まれて初めて空を飛び白鳥を見て、こんな場所があったのかと驚きました」と振り返ります。

そして、岩出山に移り住もうと決心し、真山地区に土地を購入します。それから六年後、準備期間を経てご夫婦は真山に移住しました。

「都市生活と比べても不便は感じません。過密がない分ストレスがたまりません。この環境でこんなに利便性の良い場所は、全国を探してもなかなかないと思いますよ。都市生活の経験を踏まえて真山での生活の良さをこう話します。

そして、移住の二年後、福岡から八十六歳になる両親を呼び寄せました。

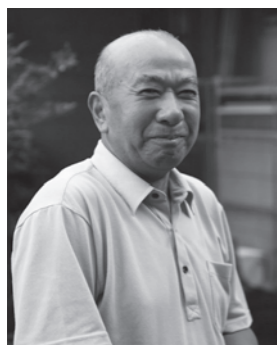


曾木東世さん / 真山に来てから自動車免許を取得。ここで餅作りに挑戦、現在は道の駅で販売するほどの腕前。「田んぼの美しさ、四季の移り変わりを感じながら生活しています」

最初は不安ながらも地域の行事には積極的に参加し、地域の人たちとの交流を深めていきます。「地区館の窓がガラリと開いて『お茶っこ飲んでいがいん』と声をかけてもらったことが本当にありがたかった」と言う曾木さん。

地域の人たちは、行事への参加を強いるようなことは何も言わないけれど、こちらから入っていくと温かく受け入れてくれる。「どの行事もとても楽しいのです。よそから来た人間の奇抜な発想や行動にもいやな顔ひとつせず、受け止めてもらって、本当に皆さんには感謝しています」と感謝の気持ちを話します。

日々の生活の中でも、地域とのつながりを感じることはたくさんある、と言います。



田代信勝さん(真山地区下馬館行政区域長) / 「地域の風土・文化を守りながら、移住者を受け入れることも大事です。曾木さんは真山の起爆剤、いい刺激を受けています」

たとえば、雪かきや農作業の手を心配してくれたり、両親の介護の心配をしてくれたり、人々がとても温かく親切で、生活の中に感動する話がたくさんあるのだそうです。

水・空気・食べ物がいしく、人が温かい、自然環境も利便性も抜群。そんな真山地区でも少子高齢化は深刻な問題です。「封建的に守るばかりでは地域はどんどん寂しくなってしまう。曾木さんは活発に地域に溶け込んでくれて、行動的で、私たちにもいい刺激です。頑張りが伝わってくるので、今ではみんな一目置いてますよ」と言っているのは曾木さんの住む下馬館行政区域長の田代さん。

移住者に対しては常に扉は開けておく、地域全体で温かく受け入れる、真山はそんな場所です。



佐藤由美さん(真山地区在住、農業、介護ヘルパー) / とっても明るい性格の由美さんとは大の友人。移住当初から力になってくれて「何でも助けてくれる頼れる存在」なのだそうです。

「都会から来た新参者で、道の駅のこと、農業のこと何も知らず、岩出山の言葉すらよく分からないようなありさまでしたが、道の駅のスタッフや生産者の皆さんにとても親切にしてくださいました」と振り返ります。

道の駅に関わって八年。立派な野菜や新しい果物などに次々と挑戦する他の生産者の人たちに、本当にすごいなと、常に尊敬の念を抱き感じているという曾木さん。

「団塊の世代の移住がブームになっていますが、そこで何をやるかが大切だと思えます。生き生きと生きられるかどうかの鍵ですから、曾木さんにとって農業を身近で感じる生活はとても大きいのです。

真山に暮らし、広大な土地を見ると、この広がりの中で育まれた人々の素朴な優しさが、自分たちを元気にしてくれると感じています。

「私たちは地域の人に支えられ、地域の中で暮らしています。私たちも何かの形で少しでも役に立ちたいですね」と話す曾木さんご夫妻。

大好きな自然と、地域の人たちに囲まれて、ご夫妻はここ大崎の地で、最高のライフスタイルを楽しんでいます。

特集・移住定住 大崎で「暮らす」ということ



8年前岩出山地域真山地区に移住した曾木さんご夫妻(左から2、4人目)。お世話になっている区長さんと友人、3頭の愛犬と一緒に1枚。

大崎市では、総合計画の将来像「宝の都(くに)・大崎~ずっとおおさき いつかはおおさき~」の実現に向け、基本計画の重点プロジェクトに大崎20万都市への挑戦を掲げ、積極的に人口増加に取り組んでいます。

そんな中、既に大崎に魅力を感じ、大崎で人生の新しい一歩を踏みだし、大崎ライフを楽しんでいる「新大崎人」がいます。

そんな人たちの目に大崎はどのように映っているのでしょうか。移住を決意させる魅力とはいったい何なのでしょう。そこには、ここに生まれ育ち、暮らす私たちが気が付いていない「大切な何か」があるのかもしれない。

最高の充実感を

感じていきます

岩出山地域真山地区在住 移住歴八年
曾木東世さん・玲子さん

こんな環境、他にはないよね

曾木さんご夫妻が岩出山地域真山地区で生活を始めて八年目の夏を迎えました。

福岡市出身のお二人は、東世さんの仕事の関係で大都市を転動する生活を送ってきました。五十代の初めから、定年後は都会から脱出し自然の中で暮らしたいと思い、第二の人生をスタートさせる場所探しを始めます。旅行や趣味の登山のたびにあちこちの土地を見ましたが、なかなかここに住みたいと思う場所に巡り合えずにいました。

そんな中、「東北に住むことは一度も考えたことがなかった」という曾木さんが岩出山を訪れることになりました。同郷の友人が岩出山に山小屋を建てたことがきっかけでした。

初めて訪れた岩出山は、これまであちこち土地を探して不足していた条件が全て満たされたような地だったそうです。

山、川、温泉、山海の食べ物がある、東北自動車道のICがすぐ近くにあり、新幹線の駅も三十分以内。東京までは新幹線で二時間二十分。東京に住む子どもたちにも日帰りで会いに行け、友人たちとの交流も続けられます。街が大・中・小と三段階になってい